



編集発行人

鹿児島大学保健師同窓会 しおさい会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域包括看護学講座内
連絡先 会長 児島 淳子
電話 090-5288-2220

「ホームページに求人情報も掲載中
<https://shiosakai.org/>
ホームページからも住所変更やしおさい会セミナーなどの参加申込みが可能です。」



鹿児島大学保健師同窓会
しおさい会会長
兒島 淳子 (S53年卒)

令和5年、あけましておめでとうございます。
同窓生のみなさま、希望に満ちた、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
今年は「卯年」。「卯」は、その跳躍する姿から、「飛躍」「向上」するものの象徴として、親しまれています。それによれば、掲げた目標が、更に前進できたらと期待します。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスがなお猛を振るい、年明けから流行「第6波」に突入し、夏の「第7波」、その後年末の「第8波」へと、感染者数と死者数は増加しました。その対応に懸命に従事された皆様に感謝の念を抱きます。また、11月中旬以降、鳥インフルエンザが過去最悪のペースで拡大しました。養鶏業者の方々の苦悩は大きく、感染拡大防止のためにとられた対策においては、自治体や保健所等の職員とともに、短期間に大変なご苦労があつたことと推察申し上げます。生物の健康を脅かすウイルスはどう向き合うことがで生きるのか、「ウイズコロナ」の取り組みで、以前の生活に戻ろう」と、行動制限解除もなされた今、更に予防対策に配慮することが求められています。

このような状況の中、同窓会の運営につきましては、昨年の5月に「第9回しおさい会セミナー」を開催しました。役員会の課題の一つ、「健全運営のためのモートによる参加も頂き、学校はもとより関係する方々の協力を得て開催できたと感謝いたしております。医学部保健学科共通教育棟の2教室を使つて開催致しました。その様子につきましては、次項に掲載いたしましたのでご覧ください。在校生の参加と、リモートによる参加も頂き、学校はもとより関係する会からの資金提供の打診」がありました。これまで2年に1回の会合型同窓会においては、その日には会費を納入される方も多く、結果納入率も高い実績があります。そこで、会費納入額の推移によりおり込みで、会費納入額の推移では、下落しております。また、「つめ草会」は、同窓会の各自の判断によりました。「つめ草会」の8月発行の会報誌に掲載されています。その文面を、私共「しおさい会」の文面です。お伝えくださいとのことでした。以降、「しおさい会」の文面を、しおさい会様へつめ草会の資料です。

金の一部をお渡しするかどうかについて、アンケートを実施し、ご意見を頂戴しておりましたが、コロナの発生後、終身会費による収入が急激に減り、会存続があやぶまれたため、総会による検討を見送らせていただいております。ご理解いただけますと幸いであります。」「つめ草会」におかれましては、アンケート調査や、現役員体制の中で協議頂いた結果、現在示された方針であります。同窓会に新規加入する学生の激減という事実は、いづれの同窓会も抱える課題です。「魅力ある同窓会への発展を如何にするとか?」再考する必要性を実感いたします。さて、鹿児島大学における教育について、令和4年3月25日、医学部保健学科のホームページに「保健師過程の選択制の廃止」という記事が掲載されました。更に9月21日に、「令和5年度の入学生から、保健師国家試験受験資格が取得できなくなります」との情報も示されました。今後の教育の方向性について、そのビジョンを、水田明子教授にも、筆を執つた。更に9月21日に、「令和5年度の入学生から、保健師国家試験受験資格が取得できなくなります」とか?」再考する必要性を実感いたします。さて、鹿児島大学における教育について、令和4年3月25日、医学部保健学科のホームページに「保健師過程の選択制の廃止」という記事が掲載されました。更に9月21日に、「令和5年度の入学生から、保健師国家試験受験資格が取得できなくなります」との情報も示されました。今後の教育の方向性について、そのビジョンを、水田明子教授にも、筆を執つた。更に9月21日に、「令和5年度の入学生から、保健師国家試験受験資格が取得できなくなります」とか?」再考する必要性を実感いたします。現在、在学中の学生の方々の学びと、令和5年度入学の学生の学びに変化が生じます。同窓会として出来ることは何か、今後の「しおさい会セミナー」とも関連付けて、取り組んでみたいと考えております。ところで、今年は第22回総会を、8月に書面総会にて開催予定です。前回に引き続きの書面総会ではありますが、総会時に開催していただ講演会をリモートにより行いたい方向性で検討中です。感染症の影響があるうとも、取り組める方法で臨みたい意向であります。会場も中央駅前のヤンセンセの中の広い会場を予約しております。今後の案内に関心を寄せて頂けた皆様、幸らいります。現在の役員の半数も、この総会時に交替となります。この総会・研修会まで、力を合わせて取り組んで参ります。



第9回しおさい会セミナー

令和4年5月21日(土)

10時~12時

鹿児島大学医学部保健学科共通教育棟4階

<ご報告いただきました>

前列左から上村真弓様、牧之瀬麻由様

前野律江様、水田明子教授

詳細は3、4ページをご覧ください

『地域創生に貢献できる人材育成』を 目指した保健師育成過程の院化について

鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻地域包括看護学講座

公衆衛生看護学教授 水田 明子



コロナ感染症の第8波とともに、令和5年を迎えました。昨年を代表するWordは『Goblin Mode』です。しおさい会の皆様には年末年始にコロナ疲れをとり、銳気を養うことができたでしょうか?

鹿児島大学では、令和8年3月に医学部保健学科看護学専攻での保健師養成課程が廃止となり、大学院前期博士課程公衆衛生看護学コースの開設を令和8年4月に予定しています。令和4年度の入学生が学士取得最後の保健師となります。

保健師課程大学院化の目的は、地方国立大学の使命である「地域創生に貢献できる人材育成」のため、鹿児島県の特性を考慮し、離島・へき地の多様な健康課題に対応できる専門性と、リーダーの資質を備えた高度な実践能力、管理能力を持つ保健師の育成を目指します。

私は令和2年4月に着任いたしました。就任式の後の懇談会で、学長より「水田先生には大学院化をお願いします」とお話をあり、重大な責務を担うことになりました。着任1年目に、予算と実習施設がなく保健師課程の学生全員が離島実習を行なつて欲しいという期待を強く感じました。また、しおさい会前会長の徳永龍子様から、鹿児島の活発な保健師活動、その長い歴史をお聞かせいただきました。このような体験を通じて、「高度な能力を備えた保健師の育成は鹿児島だからこそのこと」と決心いたしました。そして、学長命により、橋口医学部長から鹿児島県くらし保健福祉部長に大学院化の趣旨説明があり、県より意見書をいただきました。文部科学省への学部養成廃止の申請は、県の後押しがあつて受け入れられました。意見書に関しましては、県統括保健師であつた福田みゆき保健師に多大なお力添えをいただきました。しおさい会からは大学院化に関する要望書をいただきました。3年目になり、2年間以上続いた人員不足で体調を崩してしま

短期大学部は、保健婦助産婦看護婦法に規定する学校として指定されました。地域看護学特別専攻が設置され、看護学科の定員80名に保健師の養成が行われました。平成10年10月、現在の医学部保健学科へ移行しています。平成27年度から、公衆衛生看護学領域専任教授が不在の中、選抜制15名となりましたが、鹿児島県への説明がなされておらず、令和元年度には40名に増員されています。

私は令和2年4月に着任いたしました。就任式の後の懇談会で、学長より「水田先生には大学院化をお願いします」とお話をあり、重大な責務を担うことになりました。着任1年目に、予算と実習施設がなく保健師課程の学生全員が離島実習を行なつて欲しいという期待を強く感じました。また、しおさい会前会長の徳永龍子様から、鹿児島の活発な保健師活動、その長い歴史をお聞かせいただきました。このような体験を通じて、「高度な能力を備えた保健師の育成は鹿児島だからこそのこと」と決心いたしました。そして、学長命により、橋口医学部長から鹿児島県くらし保健福祉部長に大学院化の趣旨説明があり、県より意見書をいただきました。文部科学省への学部養成廃止の申請は、県の後押しがあつて受け入れられました。意見書に関しましては、県統括保健師であつた福田みゆき保健師に多大なお力添えをいただきました。しおさい会からは大学院化に関する要望書をいただきました。3年目になり、2年間以上続いた人員不足で体調を崩してしま

いましたが、現会長の兒島淳子様より吉住嘉代子保健師をご紹介いただき、高田千春保健師と共に実習、教育、教員研修にご尽力いただきました。私は同窓会の皆様のお陰で必要な休養をとることができ、学生は経験豊富な保健師による学生指導に恵まれました。人員不足のピンチは、しおさい会をはじめとして、実習指導者の皆様、全国と九州ブロックの保健師教育協議会会員校の教員の皆様に、「鹿児島大学公衆衛生看護学領域の動向」を知つていただき、ご協力をいただけるチャンスとなりました。



『hope for the best but expect the worst (最悪に備えて最善を望む)』、困難な時期をソーシャルキャピタル（信頼規範、ネットワーク）で乗り越え、令和8年度の大院開設では公衆衛生看護学領域を躍進できるよう鋭意努めますので、引き続きご支援をいただけましたら幸甚でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。





現在、鹿児島市では保健師 106名が21課に所属している。
 ○令和2年3月までの取り組み
 (患者発生はないが、不安が広がる)
 帰国者・接触者受入れ可能な医療機関を増やすため、救急外来を持つ機関の了解を得ることに奔走。
 ○令和2年4月 本市一例目の患者発生時の対応
 コロナ対策班が対応し保健師も全般的な協力体制をとった。帰国者・接触者外来についても小児科・産科・精神科の協力を調整交渉し、協力連携機関を増やした。

迅速な感染拡大防止策とクラスター発生源の公表を行った。併せて、「不特定多数の利用者への注意喚起」「市民疫学調査への協力による広報」を行った。
 また、「帰国者・接触者外来の体制と検査体制を拡充」することにより、全症例のうち 97%以上の高確率で追跡できた。
 部署を超えた保健師の協力体制で積極的疫学調査を実施できた。
 ○令和3年4月 新型コロナウイルス感染症対策室設置
 第五波デルタ株が到来し、陽性者が急激に増加。自宅待機者も増え、病状や現病歴・年齢等による



○令和3年10月 応援勤務開始基準の設定等
 第六波に備えて、応援勤務開始の基準を設定し、応援従事者用のマニュアルを見直した。
 ほか、「コロナ室保健師の業務分担制」や「ホームページを利用し

た陽性者・濃厚接触者の健康観察内容をまとめたマニュアルを作成し、誰でも従事できるようにした。「陽性告知・健診観察・就業制限解除」について電話連絡する丸となつてコロナ対応に向き合った。陽性者に対する陽性告知の連絡も滞る現実に、鹿児島市職員が一

つも、自分は帰国者・接触者相談センターの臨時職員の配置調整を行った。
 ○令和4年 第六波到来
 ポジティブな協力体制をとった。帰国者・接触者外来についても小児科・産科・精神科の協力を調整交渉し、協力連携機関を増やした。

○令和4年 第六波到来
 ポジティブな協力体制をとった。帰国者・接触者外来についても小児科・産科・精神科の協力を調整交渉し、協力連携機関を増やした。

優先順位をつけて対応を行った。
 また、「市在宅医会と診療体制を確立」「看護協会と訪問看護体制を確立」「パルスオキシメーターの配布」「食料支援」を開始した。

○令和3年10月 応援勤務開始基準の設定等
 第六波に備えて、応援勤務開始の基準を設定し、応援従事者用のマニュアルを見直した。
 ほか、「コロナ室保健師の業務分担制」や「ホームページを利用し

た陽性者・濃厚接触者の健康観察内容をまとめたマニュアルを作成し、誰でも従事できるようになど体制等の整備を図った。

○令和4年 第六波到来
 ポジティブな協力体制をとった。帰国者・接触者外来についても小児科・産科・精神科の協力を調整交渉し、協力連携機関を増やした。

○市民が安心できる体制づくり
 「有症状時に受診できる医療機関」「気になるときに誰でも検査できる無料PCR」「いつでも相談できる受診相談センター」など相談窓口等の整備が図られた。

最後に
 ○新型コロナ対策の中で感じたこと
 健康危機災害であるコロナ感染症の対策は、平常業務も進めながら災害対応を行わなければならなかつた。
 また、人との距離や外出制限、保育園、学校の休校と休業、収入減少、生活の不安、心と身体の不

調など、市民の暮らしへの影響が続いた。保健師としてできることは、地域に生活する人の声に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止め寄り添つた支援をしていくこと。
 そしてすべての保健師がともに考め寄り添つた支援をしていくこと。
 まずは隣にいる人から:

○体験発表後のディスカッション
 コーディネーター 吉住氏の進行のもと、3名の発表と共に通すキーワード「偏見・差別・誹謗中傷」をテーマに、それぞれの働きかけや学校や地域で行う「正しく恐れるための知識の普及」について意見の交換がされました。
 吉住氏からは、保健所業務の逼迫したときこそ市町村・企業・施設等など、市民の暮らしへの影響が続いた。保健師としてできることは、地域に生活する人の声に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止め寄り添つた支援をしていくこと。
 そしてすべての保健師がともに考め寄り添つた支援をしていくこと。
 まずは隣にいる人から:

○第8回しおさい会セミナー参加者について

セミナー参加状況			
【しおさい会セミナー参加者】			
・学生 9名(会場)	3名	zoom 6名)	
・学生外 21名(会場)	16名	zoom 5名)	
・発表者 4名			

○セミナーアンケート集計結果より

1.印象に残ったこと

- <学生>
 - ①中傷が起こる要因には、他者を悪者にすることで得られる安心があると感じる
→自らも戒めた(60代元市町村)
 - ②情報発信する側と受け取る側の(保健師と市民)捉え方の違いを念頭に発信する必要
 - ③HC 内でのコロナ対策業務を知ることができた
 - ④それぞれの対象者で生活背景が異なることを改めて知ることができた
- <学生外>
 - ①電話対応・相談においても相手のニーズ、背景を捉えながらの支援が大切と学んだ(20代市町村 2名)
 - ②新型コロナは「健康危機災害」であるという観点をもって保健師としてこれからを考えていきたい(50代)
 - ③組織作り、感染予防、療養支援、心の健康、寄り添い力が理解できた(60代・相談員)
 - ④実際のコロナの業務・保健師の思いを聞くことができた(50代・県職 30代・事業所)
 - ⑤保健師がこのコロナ対策の中で大きな役割を担っており、誇らしさを感じると共に、認知度が上がったと思う(60代・元市町村 2名)
 - ⑥平常業務と並行して行うコロナ対策のあり方について知った(40代・市町村)
 - 常に対象者に寄り添う視点を忘れない姿勢に胸がいっぱいになった(50代・県職)
 - ⑦「正しく恐れる」、印象に残りました(50代・市町村)
 - ⑧「まずは隣の人から」という言葉が印象的でできることをコツコツと>(20代・元市町村)
 - ◎違う立場でありながら対象者・家族に寄り添って丁寧に接していた
→保健師の幅広さ、奥深さを知れた(60代、50代、学生 2名)

2.感想

- ・発表者がそれぞれ違う立場で、年代(経験年数)も違い、幅広い立場での発表がよかったです(学生 2名)
- ・現場の生の声が直接聞けてとても興味深かった(学生 3年・4年)
- ・これから仕事に生きていきたい保健師の強みを生かして>(20代 市町村)
- ・保健師として振り返り、必要なことは何かを改めて学ぶ・考える良い機会になった(学生、50代 市町村)
- ・セミナーを通して、更に保健師になりたい気持ちが強くなった(学生)
- ・「私たちにできることは何か」学生の今、できる事を考えていく(学生)
- ・大変良かった。他の人(OBたち)にも伝えます
- ・在宅の保健師をもう活用してほしい(60代)
- ・また、生の声でつながれる日の期待をしたい、これからも保健師で頑張りたい(40代 市町村)
- ・明日から自分でできる事を考えていく(30代 県職)
- ・元気をいただいた(50代 県職)

3.その他

- ・初めてのWEB開催、協力機関に感謝(50代)
- ・三人の発表に加え、まとめ・質問などで深めることができた(20代 学生)
- ・ハイブリット開催で、自宅から参加できた。会場を2か所使ふことで密を避けることができた(50代、その他)

4.工夫してほしかった点・課題

- ・もう少し質問の時間が欲しかった(学生)
- ・講堂の音響(窓を開けて、工事の音等の問題もあるが)がよくなかった
→マスクのせいもあるのか(20代・40代 市町村 50代 県職)
- ・学生からの話も聞けたらよかった
- ・午後からの方が参加しやすい
- ・参加者同士の交流があまり少しきれいできたら(60代)

と
 健康危機災害であるコロナ感染症の対策は、平常業務も進めながら災害対応を行わなければならなかつた。
 また、人との距離や外出制限、保育園、学校の休校と休業、収入減少、生活の不安、心と身体の不

調など、市民の暮らしへの影響が続いた。保健師としてできることは、地域に生活する人の声に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止め寄り添つた支援をしていくこと。
 そしてすべての保健師がともに考め寄り添つた支援をしていくこと。
 まずは隣にいる人から:

○体験発表後のディスカッション
 コーディネーター 吉住氏の進行のもと、3名の発表と共に通すキーワード「偏見・差別・誹謗中傷」をテーマに、それぞれの働きかけや学校や地域で行う「正しく恐れるための知識の普及」について意見の交換がされました。
 吉住氏からは、保健所業務の逼迫したときこそ市町村・企業・施設等など、市民の暮らしへの影響が続いた。保健師としてできることは、地域に生活する人の声に耳を傾け、言葉と気持ちを受け止め寄り添つた支援をしていくこと。
 そしてすべての保健師がともに考め寄り添つた支援をしていくこと。
 まずは隣にいる人から:

○市民が安心できる体制づくり
 「有症状時に受診できる医療機関」「気になるときに誰でも検査できる無料PCR」「いつでも相談できる受診相談センター」など相談窓口等の整備が図られた。

昭和49年卒
新型コロナウイルス感染症の
感染拡大が始まつた令和2年1
月中旬、私は脊柱管狭窄症の手
術のため入院していました。イ
ンフルエンザの警戒体制はとら
っていましたが、自由に面会もで
き経過も良かったため無事1月
末には退院できました。それか
らまもなくコロナ発生、世の中
は生活も医療も大混乱、発症し
重症化しても家族は面会もでき
ず臨終の場にも立ち会うことも
できない悲しい状況が続きまし
た。

市のOBとして保健所の現場
は大変な状況になつてゐるだろ
うと、心配するだけで、応援の
要請にも応えられず申し訳なく
残念な思いで過ごしていました。
地域では、「〇〇でクラスター
が発生したらしいよ」「感染者
はどこの人か?」等うわさ話が
飛びかゝつて発症した方もそうで
ない人も大きな不安をかかえる
毎日でした。

そんな時、しおさい会セミ
ナーの案内があり、保健師の現
状が知りたい、自分が地域でや
ることを見つけられないか等
の思いで参加しました。

セミナーで一番心に残つたこ
とは、市、県の保健師たちが、
各自の置かれた場所でコロナ患
者家族の方々の心に寄り添つて
おられたということでした。私
も在職中感染症の発生に伴う支
援に携わる時、患者や家族を社
会から差別や偏見から守る姿
勢は大切なことと感じていまし
たが、誹謗中傷する側の不安な
気持ちを受け止め、新型コロナ

しおせら会セミナーに参加して

ウイルスの実態をしつかり伝えられることで偏見や差別の改善が図されることを学ばせて頂きまし。

強するときとはまた違った学びを得ることができたと思います。心に留めておこうと思う内容ばかりで、とても勉強になりました。

また、感染者一人ひとりに真摯に向き合うことや、対象の状況に合わせて必要なことを考へること、根拠に基づいた正しい情報をお伝えすることなど保健師として必要な態度についても知ることができました。

昭和49年卒 とよこ
新型コロナウイルス感染症の
感 染拡大が始まつた令和2年1月
月中旬、私は脊柱管狭窄症の手
術のため入院していました。イン
フルエンザの警戒体制はとられ
ていましたが、自由に面会もで
き経過も良かつたため無事1月
末には退院できました。それか
らまもなくコロナ発生、世の中
は生活も医療も大混乱、発症し
重症化しても家族は面会もでき
ず臨終の場にも立ち会うことも
できない悲しい状況が続きまし
た。

もう一つ印象に残った言葉があります。「保健師である私達には、今できることがある」としつかりした分析のもとに業務を進められたとの報告でした。発生から間もなく3年が過ぎようとしていますが、現在も保健師は大変な思いをしながら業務にあたつておられる事かと感じています。鹿児島市では、健康福祉局保健部新型ウイルス感染症対策室という部署ができ、保健師の人員増もあったと聞いています。そんな後輩たちの活躍を誇りに思い、保健師に光があたれることを嬉しく感じました。セミナーでは、なつかしい先輩や後輩に会えて元気をもらいました。おさらい会の役員の方々へ感謝して終わりにしたいと思います。

に参加させていただきました。実際に地域住民の方々と関わ
りながら、保健師の役割や魅力を感じることができた実習でした。新型コロナウイルス禍でも
快く学生を受け入れて下さった保健師さんをはじめとする職員の方々、地域住民の方々のおか
げで本当に多くのことを学ぶことができました。忙しい業務の中で、沢山ご指導頂きありがとうございました。
今回のセミナーは、現場の声を直接聞くことができた貴重な時間でした。今回の学びをこれからに生かしていくうございました。ありがとうございました。

今回のセミナーは、現場の声を直接聞くことができた貴重な時間でした。今回の学びをこれからに生かしていくうつと思いました。ありがとうございました。

鹿児島大学医学部保健学科
看護学専攻四年 崎田 真笑
今回、初めてしょおさい会せ
ミナーに参加させて頂きまし
た。コロナ禍で働く保健師さん
たちから現場の声を聞いて、そ
れぞれの場所で多くの保健師さ
んが新型コロナウイルスの対応
に励んでいる現状を知りました
また、現在の現場の状況や実際
に対応したケースについてのお
話を通じて、感染症対応の実際
やその中の保健師の役割、保
健師として大切にしなければな
らないことについて学ぶことが
できました。授業や教科書で勉

鹿児島大学医学部保健学科 看護学専攻四年 豊倉 世梨佳
しおさい会セミナーに参加させていただき、コロナ禍においてそれぞれの場所で活躍されている保健師さん方の取り組みについて知ることができました。新型コロナウイルスという未知の感染症に対しての体制整備や対応の実際について生の声を聞き、保健師さんの役割の大さや精神面にも配慮した支援の大さを学ぶことができました。感染された方は症状だけではなく仕事や学校への影響の心配や外出できないストレス、周囲の人の目など様々な不安を抱えているらっしゃいます。その不安全を受け止め、寄り添った支援を行なうことが大切だと学びました。

の仕方など多くのことを学ぶことができました。保健センターや職員の方々や地域住民の方々など多くの方に支えていただき充実した実習を行うことができました。本当にありがとうございました。

今回のセミナーでコロナ禍における現場の声を聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

鹿児島大学医学部保健学科
看護学専攻四年 萩原 美紀
しおさいの会セミナーに参加し
先輩保健師の方々のお話を聴くこと
ができて充実した時間となりま
した。新型コロナウイルス
感染症の対応では、県保健師
が、感染者の行動調査やクラス

方々に多くのご指導をいただき、保健師としての技術や視点、知識を学ぶことができました。分からぬことを質問した時は、丁寧に答えてくださり、教科書では学ぶことができないことを多く学ぶことができました。健康教育の実践では、住民の方々との相互のやり取りの重要性やあらゆる情報の中から正しい情報を選択できるよう伝えることの必要性に気づきました。また、母子や高齢者の家庭訪問や特定保健指導、乳幼児健診やお達者クラブなど多くの事業を見学できました。保健センターの実習で学んだことを忘れず、就職後にも生かしていきたいです。

ターへの対応などをを行うことなど、鹿児島県で実際に行われている保健活動を学びました。感染者やその家族によつて生活背景や抱えている不安は異なります。対象に合わせ、療養後の生活も視野に入れた支援を行うことが求められているということなどが分かりました。また、新型コロナウイルス感染症の感染やクラスターによる誹謗中傷、職場復帰や学校での学習などについての不安、外出ができないなど、精神面のケアも重要なだと感じました。電話相談では、カルテを見るよりもできず、少ない情報の中から支援を考えなければなりません。場面や背景など想像しながら、対象の話の傾聴や寄り添つた支援が必要であることを学びました。

ニューフェイスの皆さんに
紙面インタビューで
お話を伺いました。



NEW ニュー
FACE!! フェイス

日ごろのストレス解消や気分転換の方法など教えてください。	現在担当している業務や印象に残っていることなどを教えて！	出身地	お名前
アニメを見ることがあります。大学生の頃に鬼滅の刃にハマったことがきっかけで、今では生きるモチベーションになりました。これからも楽しみな作品がたくさんあるので、頑張れそうです。	地区担当保健師業務をさせていただいております。訪問や健診などでの母子支援や、地域の高齢者へ向けての健康教育など、子どもからお年寄りまで様々な対象の方々と関わり、楽しく学びながらお仕事をさせていただいております。	鹿児島県 (喜界町)	菊池美帆さん 鹿児島市 中央保健センター
ストレス解消法は、よく寝ることです。日頃から睡眠を大切にしており、平日・休日ともに7~8時間は寝るようにしています。また、私は高校生の頃からダンスをしており、社会人になった今でも時々大学時代のダンスサークル仲間と集まって踊り、リフレッシュしています。	地区担当保健師として、新生児から高齢者まで幅広い世代の人々が健康を維持し安心した生活を送ることができるようサポートを行っています。 業務を行う中で、地域には、子育てや生活において悩みや孤独を感じていたり様々な問題を抱えているケースが多く存在することを知りました。これらの経験から、市民の置かれている状況や背景を捉えながら、また信頼関係を築きながら、個々のニーズに合った支援を行っていくことが重要だと感じました。	鹿児島県 (垂水市)	井手友香さん 鹿児島市 南部保健センター
休日に家族や友人と食事や買い物を楽しんでいます。平日は、プロ野球観戦をテレビでしています。	現在、川薩保健所健康企画課企画管理係に所属しており、衛生統計や衛生委員会に関する事、地域医療構想に関する事などを担当しています。 7月から9月はコロナ業務、11月からは鳥インフル業務と様々なことを経験することができました。自分の業務については、分からない部分が多く、少しづつ勉強を進めているところです…。	鹿児島県	宮下小春さん 鹿児島県 川薩保健所
映画を見たり、友人とご飯を食べに行ったりして気分転換しています。旅行も好きなのですが、コロナウィルスの影響で遠くに行くということが全くできていなかったので、少しづつ旅行もしていきたいです。	現在、精神保健業務に従事しています。色々な方が地域で生活していることを学びました。生活に困りごとを抱えた方をうまく支援につなげることができたことはとても印象に残っています。今後も住民のためになるような支援ができたらと思います。	鹿児島県	二石詩織さん 鹿児島県 伊集院保健所
散歩をすることが好きなので、昼休み時間に同僚と職場近辺をウォーキングすることが最近の気分転換のひとつです。 休日は基本的に自宅でのんびりしたり、好きなドラマを一気見したりして過ごしていますが、余力があれば外に出て買い物をしたり、海や川など自然に触れあったりもしています。(笑)	地域保健福祉課 地域支援係に所属し、精神保健福祉に関する事や自殺対策に関する事などを担当しています。実際のケースや現場対応に従事する中で自身の力のなさを痛感する日々ですが、周りの方々のお力添えを頂きながら少しづつできることを増やしていくよう努めているところです。 自身の業務以外にも、新型コロナウィルス感染症対応や鳥インフルエンザ対応等を通して1年目から多くの経験をさせていただきました。そこでの経験や、対応業務を通してたくさんの頼れる先輩方とお話しすることができたことが今後の自分の財産になると感じています。	鹿児島県 (薩摩川内市)	小園彩加さん 鹿児島県 川薩保健所



その他伝えたいことなんでもどうぞ！	チャレンジしていることやこれからやってみたいことを教えてください。
4月に仕事を始めてから、長いようで短い月日が流れました。私の部署は1年目が1人で最初は不安でいっぱいでしたが、毎日先輩方がよく話を聞いてくださり、とてもありがとうございます。みなさまも、長期化するコロナで、大変お忙しいと思います。今回はこのような紹介の場をありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。	成人分野を頑張りたいです。母子分野は対象と関わるチャンスが多く、経験を積ませていただいている。しかし、成人は関わるチャンスも少なく、自分の知識も浅く、データからの読み解きや、生活習慣病の知識、介入など分からぬことがあります。自己学習や先輩方との勉強会など色々な機会を見つけ、積極的に学びたいと思っています。
毎日が秒速で過ぎ去っていきますが、入庁してから現在までに数え切れないほど多くの経験をすることができ、その経験や市民との関わりを通して様々なことを吸収できました。失敗や至らない点もまだ多くありますが、困った際は上司や同僚に相談し、保健師として、そして社会人としてのさらなるスキル向上に努めていきたいです。	鹿児島市は研修制度が充実していると感じています。これまで受けた研修は全て現在の仕事に役立っていますが、なかでも乳幼児やその親への具体的なアプローチについての研修は非常に勉強になり、その後積極的に支援に取り入れています。 地域に出向き市民と関わる中で、担当地区における健康課題を捉えることができましたが、その課題に対する直接的な働きかけがあまりできていない現状があります。今後は課題解決への支援を行ったり、健康な地域づくりのために何ができるか市民と一緒に考えていきたいです。
ご迷惑をかけることも多いと思いますが、頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。会ったときにはぜひ声をかけてください。	感染症の流行が収まってきたら、旅行をたくさんしたいと思っています。 (旅行のために、少しずつですが貯金を頑張っています。)
1年目でわからないことばかりですが、はやく一人前になれるよう精進してまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。	様々な研修を受けたり、関係機関に伺いながら精神保健分野の支援について学んでいます。約1年働いて、公務員としてどのように働くのかなどわかつてきたので、来年からはより先を見通して業務を行うようにしていきたいと考えています。
	一番は学生時代からの夢である海外旅行に行きたいです！ また、日本全国の観光地をめぐったりおいしいものを食べたりして、自分の知らない他県の魅力をたくさん知る旅もしたいと思っています。海外旅行に向けて、英語の勉強も頑張ります！

職場紹介

鹿児島県障害福祉課

川崎 誉代

(S61年卒)

鹿児島県庁の保健師は、令和4年度には2部12課に24名が配属され、行政庁舎1階、2階、3階、4階の各フロアで働いています。県保健師の約18%が県庁内で働いている状況です。そのうち「しおさい会会員」は14人です。

ここで、県庁で働く保健師が増加してきた経緯を紐解いてみます。

筆者が県庁勤務した平成3年頃は、山下町（現在鹿児島県民交流センター）に古びた薄暗い県庁舎がありました。当時は看護行政、成人保健、母子保健、県職員の健康管理部署に10名程の保健師が勤務していました。あれから30余年、保健所法は地域保健法にかわり、健康増進法、介護保険法等の各種法律が施行され、公衆衛生行政の広がりと共に業務は複雑になりました。一方では、県職員の大幅な人

員削減、地域振興局体制ということで、精神保健、感染症、医療計画、難病、介護保険、地域包括ケア、国民健康保険、令和4年度には新型コロナ感染症担当部署に保健師が新たに配置されました。

さて、県庁の仕事は年4回の県議会と予算要求と決算処理があり、初めての県庁勤務で困るのは予算システムの操作や国や市町村との補助金の扱いや委託事務です。会計規則本を見たり、先輩に相談したりするなどして対応しています。「こんな事するためには保健師になつたんじやない！」と思うこともしばしばありました。が、その先に保健師が企画した事業があり、県民サービスにつながつてているんだ！と自身に言い聞かせ、日々頑張っています。

県庁保健師の担当業務以外の活動について紹介します。

新型コロナウイルス感染症

用務では、保健所派遣の他に、懲れそうな気持ちになりますが、庁舎1階には大きな生協売店があり、何より、お昼休みに出会う保健師仲間とのマスク越しのおしゃべりが楽しみとなっています。分散配置が顕著な県庁保健師ですが、コロナ終息後には時間外での交流会が持てたらと願っています。

また、令和4年11月から発生した高病原性鳥インフルエンザでは、24時間体制で殺処分等に従事する職員の健康観察業務に3交代制の各班1～2人派遣され従事し、なんとか、保健師間の協力により乗り切ることができました。

県保健師にとって、県庁はジヨブローテーションの重要な配置先にもなり、新任期後半から中堅期前半、つまり20代後半から配置されることも多くなりましたが、前段でも記載しましたが、企画事務や予算関係の業務、多くの事務職



仕事始めの日に県庁ロビー前で撮影
(筆者は前列左から3番目)

臨集後記

皆様のご協力のおかげで、しおさい第38号をお届けすることができました。お忙しい中、快く寄稿いただきました方々に心より感謝申し上げます。

(文責:羽生)

第22回 しおさい会総会のご案内

日時：令和5年8月5日(土)午前10時～12時30分(研修会11:00～12:30)

場所：鹿児島市よかセンター会議室

(※現地開催およびWeb開催・配信のハイブリッド方式で開催します。)

内容：1.書面総会…議長、議事録署名人、役員により実施

会員様は書面表決書をご参加

2.研修会……「しおさい会の歴史とこれから」

講師 德永龍子 氏(鹿児島純心女子大学名誉教授)